

もっと遊びたいの



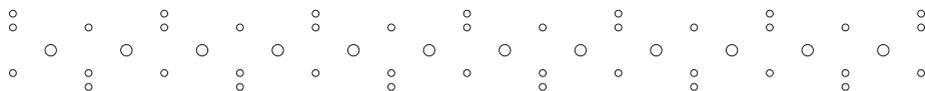
一九九七—二〇〇一

もつと遊びたいの……

子どもたちは、遊ぶために生まれてきました。そしてできることならば、ずっと遊んでいたいのです。

二歳のあやちゃんは昨日の夜中に突然「ゼロイチニサン（0123）にいくー」と大きな声で泣き声をあげ、家族をびつくりさせたそうです。泣きやまないのでパパが抱っこして、（0123）の方向を家の窓から見せながら、「ほらね夜だから誰もいないよ、また明日行こうね」と言い聞かせて、おさまったそうです。「012・012」と朝六時から母親をせかせる子や、「今日はお出かけ」と聞いた途端にさつさと靴をはいてママの靴もならべて玄関で待っている子など、お出かけにまつわるエピソードはたくさん聞かれます。

また、夕刻の（0123）では、帰り仕度をすませた子どもが玄関で大泣きしている姿もよく見かけます。お母さんは困って、なだめたりすかさしたり、あげくは叱ったり怒ったりしています。泣く理由の大半は子どもが疲れて眠くなっているか、遊び足りなくて不満が残っていることなのです。スタッフがそばに行つて、子どもに「いっぱい遊んだね。もつと遊びたいのね。でも今日はもう帰る時間ね、また明日いらっしやいね。明日もたくさん遊びましょうね」などと子どもの目を見つめて心をこめて話しかけると、ふっと泣きや

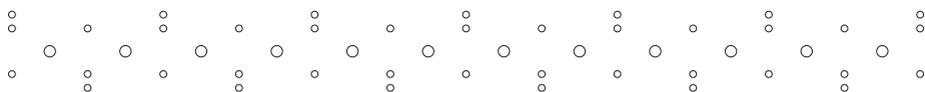


み、安心したように、バイバイと手を振ります。まるで魔法にかかったようだとお母さんたちはびっくりします。

どんなに小さな赤ちゃんでも、出かける時も帰る時も、自分の意志がしっかりとあるのです。自分がどうしたいのか伝えたいと思っています。その気持ちをそっくりわかってくれて受け止めてくれたら、子どもは納得し満足します。余分に叱らずにもすみませす。子どもは、願いをかなえてもらうことよりも、思っていることをそのまま受け止めてもらうことを望んでいるのではないのでしょうか。

(一九九七年四月『虹』三十七号)

ゆ 生後10日

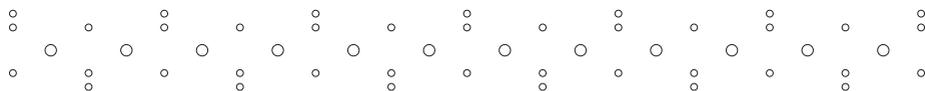


子どももって可愛い？

突然、談話室から「この子ったら可愛くないんだから！ ごめんなさいって言いなさい！」。我が子に向かって激怒するお母さんの大声が聞こえました。そしてわんわん泣く子どもの声。「一緒にごめんなさいって言おうか」とまわりの親が助け船をだしました。居合わせたお母さんたちは子どもの味方についていたり親のなぐさめにまわったり、そんなこんなで、騒ぎはとりあえず治まり、子どもたちの元気な声と大人たちの笑い声が戻りました。

親だって、いらいらしたり怒ったりします。子育ては思うようにならないことばかりです。「あそぼうよ」とねだる子に、「お茶の一杯ぐらい飲ませてよ」と言っではいけないのでしょうか。親として失格でしょうか。いつでもすぐに子どもの要求に応える親が良いとは限らないと思っています。

子どももって可愛い？ と質問されたら答えに戸惑うことでしょう。子どもは、可愛かったり可愛くなかったりする、不思議な存在なのですから。可愛い時はぎゅっと抱き締め、余裕のない時には「ちょっと待ってね」と言っても良いのではないのでしょうか。少子化や核家族化の進む現代、子育てがしにくいとか、子どもが育ちにくいなどの社会現象が生じ

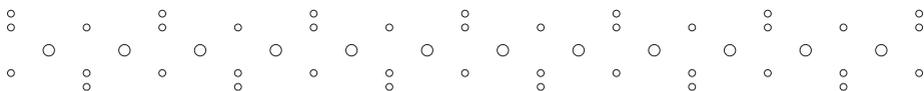
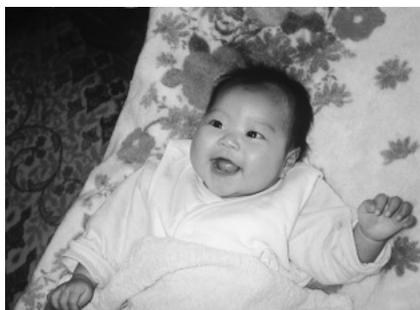


ています。親も子も優等生であることが望まれ、期待の中で押し潰されそうです。

育てようとするから混乱するのであって、子どもは自ら育つものと信じたらどうでしょうか。親は子どもの育ちを、必要に応じて助けるに過ぎないのです。育つ主体は、あくまでも子どもにあるのです。子どもは親だけでなく、社会も一緒に育てるものです。親も子どもに支えてもらっていると謙虚に考えたら、もっと楽に、子どものいる人生、子どもと共に生きる人生を楽しめるのではないのでしょうか。子どもの育つ力を信じて、余裕をもって子育て（子育て）を楽しみませんか。

（一九九七年五月『虹』三十八号）

ゆ 0歳2か月

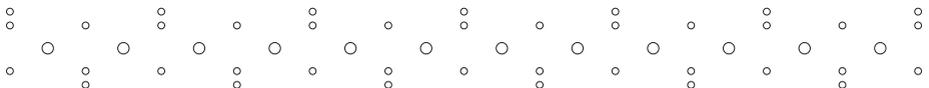


大きくなったら何になる？

毎月第四土曜日に「誕生日のつどい」を実施しています。○歳から三歳の誕生日の子どもを囲んで、大人も子どももスタッフもみんな一緒に、手遊びをしたり、絵本や人形劇を楽しんだりしながら、子どもの成長を祝う会です。初めに、誕生月の子どもはお母さんやお父さんと前に出て、誕生日や名前や年をみんなにお話しします。二歳や三歳の子どもは自分で挨拶の言葉を考えてきたりもします。

四月の「誕生日のつどい」でのことです。十二人の子どもたちが、思い思いにご挨拶。一人で言える子ども、お母さんに言ってもらう子ども、前に出てにこにこ。三歳のゆうちゃんの番になりました。大きく深呼吸したゆうちゃんは、一生懸命に言いました。「大きくなったら象になります！ 小さくなったら蟻になります！」。会場は大拍手。

子どもの発想って自由自在で素敵ですね。そして価値観も自由自在。「大きくなりたい」という思いだけでなく、こうして伸びやかに、「大きい・小さい」の意味を考えているのです。そして大きいことだけが良いのではなく、小さいことも素敵なのです。そんなあなたの経験の積み重ねです。そしてたくさんの考えに出会っているはずですよ。それなのに、



もっと遊びたいの

ゆ

0歳3か月



なんて発想が貧困なのでしょう。「健康に育って、立派な大人になるように」なんて考えているのですから。大人になるということは、世界が狭まること・考えが固まることかも知れません。できることなら子どもに戻りたい、とさえ思うことがたびたびです。

提案があります。子どもの言葉や行動に関心をもって観察したり、付き合ったりしてみませんか。近くに子どもを見かけたら話し掛けてみるのも良いですね。子どもに学ぶことがたくさんあります。……子どもって素晴らしい！

(一九九七年六月『虹』三十九号)

